



医師
玉田 潤平

頭痛やめまいなどで、脳の病気ではないかと心配になることがありますか？そこでこのような頭の症状についてお話ししましょう。

頭痛

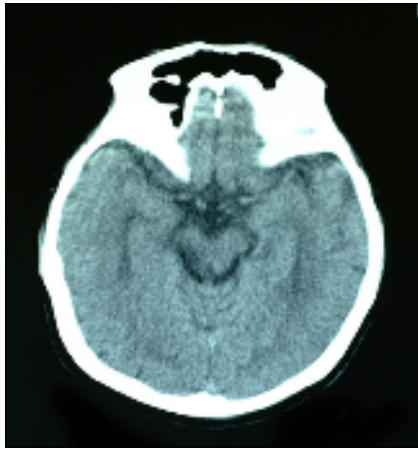
一番多いのは緊張性頭痛と呼ばれるもので、毎日のように首筋から後頭部にかけて重かったり、はちまきで締め付けられるような頭痛です。肩凝りやストレスが原因ですので普段から背筋を伸ばしたり、肩や首を廻して筋肉をほぐし血行を良くすると楽になります。毎日根気よくやると良いでしょう。しかしどうしても痛い時には薬を服用します。この時痛み止めだけでなく筋肉を軟らかくする筋弛緩剤や安定剤も加えると効果的です。いずれにしても脳の病気ではないので、心配せずリラックスを心がけましょう。

片頭痛は若い人に多く、年に何度か拍動性の頭痛発作がおこる病気です。なかには頭痛の前に目の前にギザギザしたようなものが見え

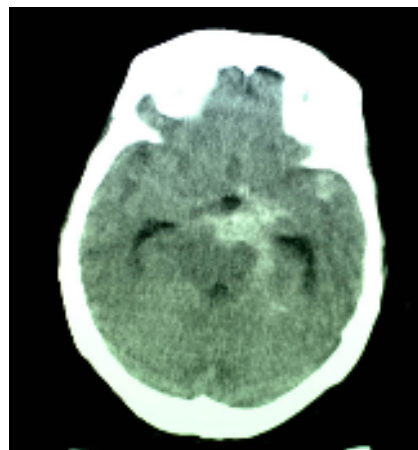
頭の病気 について

るといった「前兆」を伴うこともあります。頭痛が始まると寝込むほど痛く、何度も吐いてしまいます。今までは発作が起ってしまおうと薬がなかなか効きませんでした。最近特効薬が出て患者さんが楽になっています。これも脳の病気ではありません。ほとんどが年齢と共に治ります。

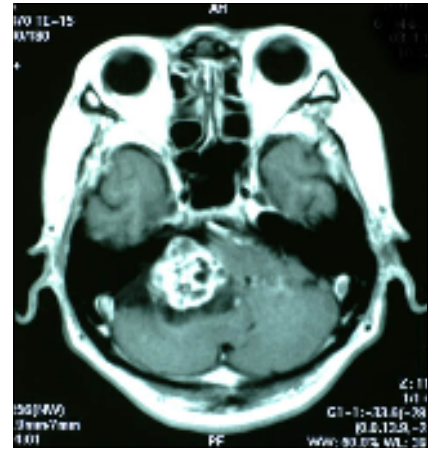
これらは良性の頭痛ですが、気を付けなくてはならないのは、くも膜下出血（※1）や脳腫瘍（※2）です。くも膜下出血は何時何分とも言えるほど突然に頭痛がおこるのが特徴です。それは今までに経験したことの無いような激しいもので嘔吐も伴います。たいがい意識も混濁して救急車で運ばれます。脳腫瘍では頭痛は数週間の経過で徐々に強くなり、吐き気や半身の麻痺、言語障害などの脳の症状が出てきます。子供さんが頭を痛がったり吐いたりして、しかも歩く時にフラツキがある場合には脳腫瘍を疑って検査をしたほうが良いでしょう。しかしこれらはそれほど多いものではありません。



正常な脳



くも膜下出血 (※1)



脳腫瘍 (※2)

上の写真は、正常な脳と今回の話にあげた2つの症例です。頭部CTや頭部MRI検査により、正常と比べ異常な像が写し出されています。頭部症状等で心配な方はこのようなCT・MRI検査を受けてみたほうが良いでしょう。

めまい

めまいには、天井がグルグル回る回転性のものや、身体がフラフラする動揺性のもの、立ちくらみなどがありますが、なかにはチョッとでも頭や身体を動かすと、吐いてしまい動けなくなる程ひどいものもあり、脳の病気ではないかと心配になりますが、たいがいは2～3日で治ってしまいます。原因はよく分かっていませんが、ほとんどが良性で耳の奥（内耳）によるものです。風邪をひいた後などに内耳のウイルス感染によりおこることがあります。また歩行時のフラツキや立ちくらみは、自律神経失調も考えられます。めまいに伴って、半身の動きのぎこちなさ、

呂律がうまく回らない、ものが二重に見えるなどがある場合には、脳梗塞を疑わなければなりません。いずれにしてもこれらの症状がある場合には、一度頭の検査をしておくとお心です。次回は痴呆やパーキンソン病などについてお話します。